

## 1. 背景

平成 26 年 11 月 14 日に大学設置基準の一部改正が行われ、「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」が公表されました。高等教育を取り巻く世界の諸情勢を鑑み、実施されたものです。

出典：文部科学省 HP (ジョイント・ディグリーに関する検討状況)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/attach/1319069.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/attach/1319069.htm)

◇ 大学にとっての意義

- ①海外におけるプレゼンスの強化・向上
- ②大学がその質を保證する学位留学プログラムとしての位置付けが可能となること
- ③外国の大学との国際教育連携を通じた教育内容の充実による国際競争力や魅力の向上
- ④優秀な学生の計画的な受入れ・派遣を通じた国際的な視野を持つ人材の育成
- ⑤外国大学との連携を深めることによる教員の意識改革や連携の強化をはじめとした学内改革の契機

出典：「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」(平成 26 年 11 月 14 日)

## 2. 定義

ジョイント・ディグリー (JD) :

連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該連携する複数の大学が共同で単一の学位を授与するもの。我が国の法令上の整理では、学校教育法等に基づいて「我が国の大学が授与する学位」となる。

## 3. 岐阜大学及び他大学の JD 導入状況

2018 年 12 月調べ (岐阜大学グローバル推進本部)

\* = 学科での設置

【専攻別】計 19 専攻・1 学科 (博士課程：13 専攻、修士課程：6 専攻、学士課程：1 学科)

【大学別】計 10 大学

- 1 専攻 (学科) 設置：5 大学 (京都工芸繊維大学、長崎大学、名古屋工業大学、山口大学、立命館大学\*)
- 2 専攻設置：3 大学 (京都大学、東京医科歯科大学、筑波大学)
- 4 専攻設置：1 大学 (岐阜大学)
- 5 専攻設置：1 大学 (名古屋大学)

【相手国別】計 12 カ国・地域

- 1 専攻 (学科) 設置：6 カ国 (アメリカ\*、カナダ、スウェーデン、台湾、チリ、フランス)
- 2 専攻設置：4 カ国 (英国、オーストラリア、ドイツ、マレーシア)
- 3 専攻設置：1 カ国 (インド)
- 4 専攻設置：1 カ国 (タイ)

## 4. 本学の状況

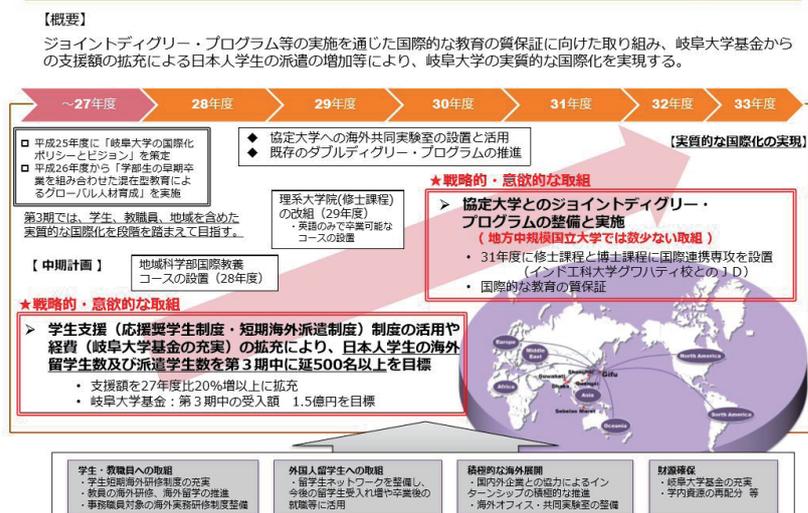
### 本学の将来ビジョンと JD の位置づけ

大学の国際化を推進するため、複数の協定大学への海外共同実験室の設置・活用やダブルディグリー・プログラムを推進するとともに、平成 31 年度を目途にジョイントディグリー・プログラムを整備し実施する。(国立大学法人岐阜大学第 3 期中期計画【1-4-(1)-①-1】「戦略性が高く意欲的な目標・計画」)

### 戦略性が高く意欲的だと考える理由

「ジョイントディグリー・プログラムを整備し実施する大学は数が少なく、地方の中規模国立大学においては初めて又は数少ない取り組みであるため。なお、運営費交付金の機能強化の方向性に応じた重点配分による予算措置を財源としている。」

### 国際協働教育を通じた国際化



## 設置する専攻は？

### 国際連携専攻（JD）4専攻の設置 **平成31年4月設置**

海外の大学と連携して教育課程を編成し、共同で学位を授与する以下の4つの国際連携専攻を設置。

専攻名	入学定員	設置母体	申請状況
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻	10名	自然科学技術研究科 (修士課程)	平成30年6月 設置認可済
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻	2名	連合農学研究科 (博士課程)	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携統合機械工学専攻	2名	工学研究科 (博士課程)	平成30年11月 設置認可済
岐阜大学・マレーシア国民大学 国際連携材料科学工学専攻	2名	工学研究科 (博士課程)	

## JDの特徴は？

①学位記がジョイント・ディグリーを象徴している。

従来専攻：本学の学位記（和文）

ダブル・ディグリー：

本学の学位記＋連携大学の学位記

ジョイント・ディグリー：

本学と連携大学が**連名で1つの**  
学位記（日本語＋相手大学国言語＋英語）

②共同開設科目がある。

ダブル・ディグリー：

各大学が提供する科目を受講

ジョイント・ディグリー：

各大学が提供する科目＋**共同開設科目**

③留学を含み標準修業年限内に学位取得が可能である。

### ジョイントディグリープログラム（博士課程）の学位記（案）



ジョイントディグリープログラムを修了し、学位を取得した学生には以下の学位が授与される。

博士（学術）及び Doctor of Philosophy

学位は、本学の学長及びIITGのディレクター（UKMの場合、UKMの学長）の署名と両大学の校章が付された1枚の書状とともに両大学により共同で授与される。学位記は主大学で交付される。

学位の文言は、英語、ヒンディー語（UKMの場合マレー語）及び日本語で記載される。

専攻名	学位	学位英名
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻	博士(学術)	Doctor of Philosophy
	修士(食品科学技術)	International Joint Degree of Master of Technology in Food Science and Technology
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携統合機械工学専攻	博士(学術)	Doctor of Philosophy
岐阜大学・マレーシア国民大学 国際連携材料科学工学専攻	博士(学術)	Doctor of Philosophy

## 学生の行き来はどうなるの？

### 【学生の入学と学籍の扱い】

入学を希望する大学側に検定料を納め、入試を受ける。

入学者は入試を受けた大学側のルールに従い、入学金、授業料などを納める。

外国連携大学側には納めないが、連携専攻のため学籍は両大学で発生する（二重学籍）。

### 【学生支援（一例）】

JDの学修課程は英語が基本言語となり、修業期間中に海外留学も義務付けられているため、学生にとってハードルは高くなる。優秀な学生を前提とした専攻であるため、学生に対する経済的な支援を行う予定である。

●入学金：不徴収とする。

●授業料：学期ごとに成績判定を行い、成績優秀者については、標準修了年限を限度として授業料を免除する。

【学生の学年進行スケジュール（参考）】

〈博士課程の場合〉

学期	1st	2nd	Break	3rd	4th	Break	1st	2nd	Break	3rd	4th	Break	1st	2nd	Break	3rd	4th	Break
開始月	4月	6月	8月	10月	12月	2月	4月	6月	8月	10月	12月	2月	4月	6月	8月	10月	12月	2月
岐阜大学 入学生	岐阜大学において履修と研究						相手大学において履修と研究						岐阜大学において履修と研究					
相手大学 入学生	相手大学において履修と研究						岐阜大学において履修と研究						相手大学において履修と研究					

〈修士課程の場合〉

主大学と する大学	1年次														2年次																	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7				
インド工科大学 (IITG)					期間1 ・ 食品技術に関する 科目を履修								期間2 インキュベーション期間 ・ 修士論文研究 ・ 留学準備				期間3 ・ GUに滞在 ・ 食品科学に関する 科目を履修 ・ 修士論文研究				期間4 ・ 修士論文研究				期間5 ・ 修士論文研究				学位 審査		両大 学合 同学 位審 査	
共同開設 科目					① 研究演習 ② GU学生 インドで インターンシップ								① 研究演習 ② IITG学生 日本で インターンシップ																			
岐阜大 学 (GU)	期間1 ・ 食品科学に関する 科目を履修 ・ 基礎科目受講 ・ 修士論文研究 ・ 留学準備 ギャップターム				期間2 ・ IITGに滞在 ・ 食品技術に関する 科目を履修 ・ 修士論文研究				期間3 インキュベーション 期間 ・ 修士論文研究				期間4 ・ 修士論文研究				期間5 ・ 修士論文研究				学位 審査		両大 学合 同学 位審 査									
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7				
	1年次														2年次																	

特長

主大学に4期間、外国連携大学（副大学）に1期間滞在する。同年度に入学した本学およびIITGの学生は少なくとも8か月は共に学ぶ（□と□の部分）。

補足）開講初年度の本学期間1では本学学生のみが科目を履修するが、2年目以降の本学期間1において本学学生は前年度入学のIITG学生と共に学ぶ。岐阜大学学生における期間1は、岐阜大学とIITGの間の学年歴のずれに基づく「ギャップターム」に相当するが、留学準備を行う期間として活用する。

岐阜大学（GU）で実施する科目  
IITGで実施する科目

なぜ岐阜大学がIITG・UKMとJDをやるのか？

共同開設科目の設計や、学生が両大学の研究室に所属することによる共同研究の活性化が見込め、学生だけでなく組織としての国際化を推進する。

JD活動で地域と地域を繋ぐ！

岐阜大学 JD活動の地域・産業界への波及効果 ※JD活動：ジョイント・ディグリー専攻を中心とした教育・研究活動及び社会貢献

～JD活動を基盤とする日本企業のJD相手国への進出支援と食品及び関連産業の推進～



○岐阜大学とIITGのJD活動による連携の事例  
H30年2月にグワハティにてシンポジウム「北東インドにおける生物資源利用の将来構想」（JSPS二国間交流事業）を共催  
・ 日本企業の三菱ケミカルフーズ（株）、オリエンタル酵母（株）、イビデン（株）が参加  
・ 北東インド農産物マーケティング協同組合、北東インド商工会議所主催のセッションの実施  
・ アッサム州の投資式典「アドバンテージ・アッサム」（モディ首相、平松大使等が出席）に参加【写真】  
※インド北東部の開発と日本（インド政府との協力）  
「日印北東部開発調整フォーラム」（H29）、「アクト・イースト・フォーラム」（H29）



## JD 設置を視野に入れた諸活動について

JD 設置に向け、外国連携大学と下記のような戦略的な交流を行っています。

### JD 設置に向けた戦略的な交流の取組実績

2018年7月10日時点

2012.7	連合農学研究科が IITG と部局間学術交流協定を締結
2014.4	工学部が IITG と部局間学術交流協定を締結
2014.9.21	IITG と協働教育についての合意書 (MOU) を締結
2015.2.25	IITG 教授 2 名が本学を訪問 [JD 等についての意見交換][工学・連農]
2015.4.1	グローバル推進本部キックオフミーティング
2015.4.2	IITG 副理事らが学長表敬訪問 [JD 等についての意見交換]
2015.4.19-24	IITG Goud 准教授を招へい (公益財団法人 田口福寿会の国際学術交流助成) [応生・連農]
2015.6.20-23	森脇学長ら IITG を訪問 23 日: IITG と大学間学術交流協定調印式実施
2015.12.4-22	第 1 回ウィンタースクール [IITG 学生 8 名来学、ラボ体験・地域企業見学等実施]
2015.12.15	IITG 学長が学長表敬訪問
2015.12.15	IITG 学長が本学にて特別講義を実施
2016.3.27-30	JD 専任候補教員ら IITG を訪問 [JD 設計のための協議、現地データの収集等] 「第 1 回日本インド高等実務者政策対話」に参加 鈴木理事プレゼンテーション: 「日本・インド協働教育による地域社会を自立循環型へと牽引する高度な専門職業人育成プログラム」
2016.7.7	
2016.8.1	IITG 及び UKM との合同シンポジウム「Applied Science and Technology of Bio-related Materials」を開催
2016.8.2	UKM 教員とミーティング [JD 等についての意見交換][工学]
2016.9.21	UKM と大学間学術協定調印式
2016.12.5-22	第 2 回ウィンタースクール [IITG 学生 6 名・UKM 学生 2 名来学、ラボ体験・地域企業見学等実施]
2017.1.20-22	鈴木理事ら IITG を訪問 [JD 設計のための協議、在インド日本国大使館 大使らとの会談]
2017.7.20-21	鈴木理事、JD 専任候補教員ら UKM を訪問 [JD 設計のための協議]
2017.11.24	UKM 教員等による講演会「マレーシアに向けた商品設計と企業展開」
2017.12.6-21	第 3 回ウィンタースクール [IITG 学生 5 名・UKM 学生 2 名来学、ラボ体験・地域企業見学等実施]
2017.12.13	JD 専任予定者、IITG で講義
2018.2.1-4	北東インドにおける生物資源利用の将来構想についてのインド日本二国間シンポジウム [本学教職員 10 名、企業関係者等 会場: IITG]、アッサム州の投資式典「アドバンテージ・アッサム」参加
2018.4.26	第 1 回 国際協働教育部門セミナー『JD 専攻の魅力』
2018.5.23	IITG 教授 2 名の講演会 [応生・連農][工学]
2018.5.25	"未来へのバイオ技術"「北東インドの生物資源、食品バイオポリマー研究」～インド工科大学グワハティ校と岐阜大学の産官学共同展開～ [企業向けセミナー 会場: バイオインダストリー協会 (JBA)]
2018.10.22	UKM との国際ジョイント・ディグリー博士課程プログラム協定書 (MoA) を締結 [締結式会場: UKM]
2018.10.31	Japan Education Fair 2018 参加 [東京大学インド事務所主催、会場: IITG]
2018.12.4-21	第 4 回ウィンタースクール開催 [IITG 学生 5 名・UKM 学生 3 名来学、ラボ体験・企業見学・地域文化体験実施]
2019.3.9-22	スプリングプログラム開催 [岐阜大学生 5 名が IITG を訪問、受講体験・地域文化体験等実施]



本学 HP 上での JD 紹介ページ  
(<https://www.gifu-u.ac.jp/international/office/jdprogramplan.html>)

### JD 設置までの準備態勢について

～本学の特徴ある進め方～

従来: 総合企画部企画課と各専攻が準備 (縦割り)

今回: **部局横断型**

① グローバル推進本部において、理事を中心に専任教員候補者 (4 名)、関係教員、事務職員が協働して 4 専攻の申請書類内容を検討。

(JD ワーキング・グループ)

② 申請書類作成について

- ・専任教員候補者が冊子体他のドラフトを作成
- ・総合企画部企画課が設置申請全体を担当
- ・各専攻の部局事務が岐阜大学分の書類を担当
- ・グローバル推進本部が海外大学関連分の書類を担当



**設置審申請の準備:  
チームで取組み  
効果的かつ効率的に実施**

### グローバルとは?

岐阜大学が目指す国際化は「地域に根差した国際化と成果の地域還元」です。日本国内の一定地域と海外の一定地域とが教育、研究、あるいは社会・経済活動についてマッチする課題を共有し、また認識し、それを解決することによって得られる成果が双方の地域振興に結実するという実践的な国際化 (グローバル化) が目標です。

## 5. 外国連携大学の紹介：インド工科大学グワハティ校 (IITG)



\*年間授業料の目安金額帯



**Gifu University**  
**岐阜大学**

THE university rankings 2018

97<sup>th</sup>  
Japan University Rankings 2018

801-1000<sup>th</sup>  
World University Rankings 2018

---

2019  
QS Global World Ranking ①  
**#651-700**

Average Fees (USD) ①  
**4K-6K \***

Status ①  
**Public**

Research Output ①  
**High**

Total Students ①  
**7,344**





**Indian Institute of Technology Guwahati (IITG)**  
**インド工科大学グワハティ校**

THE university rankings 2018

101-150<sup>th</sup>  
Young University Rankings 2018

601-800<sup>th</sup>  
World University Rankings 2018

工学と科学技術を専門とした国立大学として設立されたインド工科大学の第6校目となるグワハティ校は、1994年にアッサム州のグワハティ市に設立され、翌年開学し現在に至る。  
BTech、BDes、MA、MDes、MTech、MSc、PhDプログラムを提供する11の学部と5つの学際領域センターがあり、工学、科学、人文科学の主要分野を網羅しているほか、高度な研究を行うための世界クラスの施設が整備されており、最先端の科学技術装置も備えている。

2019  
QS Global World Ranking ①  
**#=472**

Average Fees (USD) ①  
**2K-4K \***

Status ①  
**Public**

Research Output ①  
**Very High**

Total Students ①  
**5,591**



インドの2.39%の面積を占めるアッサム州は、北東部を構成する8州のうちの1つであり、周囲を西ベンガル、ブータン、バングラデシュに囲まれた立地である他、東南アジアにも近く、北東部の玄関口となっている。世界自然遺産の国立公園等がある自然豊かな州である他、アッサムティーにも代表される茶葉の生産やシルクの生産等農業の盛んな州でもある。

### Department of

- Biosciences & Bioengineering
- Chemical Engineering
- Chemistry
- Civil Engineering
- Computer Science & Engineering
- Design
- Electronics & Electrical Engineering
- Humanities & Social Sciences
- Mathematics
- Mechanical Engineering
- Physics

### Academic Centre for

- Energy
- Environment
- Linguistic Science & Technology
- Nanotechnology
- Rural Technology



外務省海外安全情報 インド・アッサム州グワハティ市 危険度レベル1 (2018.1.19 レベル2から引き下げ)

## 5. 外国連携大学の紹介：マレーシア国民大学（UKM）



\*年間授業料の目安金額帯



**Gifu University**  
**岐阜大学**

THE university rankings 2018

97<sup>th</sup> 801-1000<sup>th</sup>

Japan University Rankings 2018 World University Rankings 2018

---

2019  
QS Global World Ranking ①

**#651-700**

Average Fees (USD) ①

**4K-6K \***

Status ①

**Public**

Research Output ①

**High**

Total Students ①

**7,344**





**Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM)**  
**マレーシア国民大学**

THE university rankings 2018

151-200<sup>th</sup> 601-800<sup>th</sup>

Young University Rankings 2018 World University Rankings 2018

マレーシア国民大学は、国民の熱意と支援によって 1970 年に設立されたマレーシアを代表する五つの研究大学のひとつであり、首都クアラルンプールの南東約 35 キロのスランゴール州バンギに位置する。創立以来、研究やアカデミックなプログラム、コミュニティへの関与と国際化への優れた実績で、様々な国際的な大学ランキングでも常に国内最上位に位置し、内外から高い評価を得ている。UKM は 13 の学部を有する総合大学である。中でも理工学部は最大の規模を有する学部であり、バイオサイエンス・バイオテクノロジー学科、応用物理学、ケミカルサイエンス・食品技術学科、数理科学科、環境・自然資源学科を有し、岐阜大学とはすでに工学部だけでなく応用生物科学部や教育学部などとも交流実績がある。

---

2019  
QS Global World Ranking ①

**#=184**

Average Fees (USD) ①

**<2K \***

Status ①

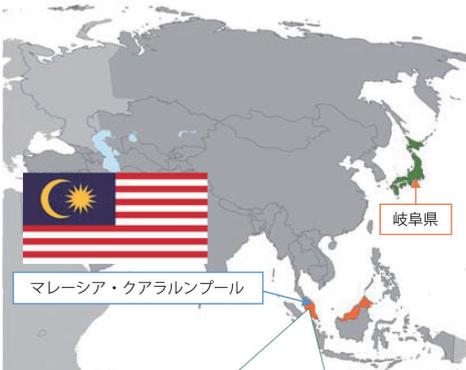
**Public**

Research Output ①

**Very High**

Total Students ①

**16,977**



マレーシア・クアラルンプール

岐阜県

**Department of**

- Social Sciences and Humanities
- Science and Technology
- Economics and Management
- Pharmacy
- Islamic Studies
- Health Sciences
- Engineering and Built Environment
- Law
- Dentistry
- Education
- Medicine
- Information Science and Technology

**Institute of**

- Fuel Cell
- Visual Informatics
- Systems Biology
- Microengineering and Nanoelectronics
- Environment and Development
- Malaysian and International Studies
- Climate Change
- Solar Energy Research
- Islam Hadhari
- Ethnic Studies
- The Malay World and Civilization
- Medical Molecular Biology
- Ear, Hearing and Speech



**Kuala Lumpur**

首都クアラルンプール

マレーシアの首都クアラルンプールは、東南アジア有数の世界都市に数えられる。マレー半島南部の丘陵地帯にある。市の郊外には、マレーシアの空の玄関であるクアラルンプール国際空港 (KLIA) が存在する。空港とクアラルンプール市内を結ぶ交通手段としてはKLIA エクスプレスがあり、市内のKLセントラル駅から空港までをノンストップで28分間で結んでいる。



**KL - International Airport**

クアラルンプール国際空港

**Japanese Window @ UKM:**  
**Students**



**UKM**  
における  
日本語の  
コース  
**Japanese**  
Course at  
**UKM**

Inbound Japanese Student Mobility

## 6. 各 JD 専攻の紹介

### 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携統合機械工学専攻（博士課程）の概要



#### 【基本概要】

母体組織：工学研究科（Graduate School of Engineering）[H31.4月改組予定]  
 専攻名称：岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携統合機械工学専攻  
 (International Joint Department of Integrated Mechanical Engineering between Indian Institute of Technology Guwahati and Gifu University)  
 学位名称：博士（学術）（Doctor of Philosophy）  
 入学定員：2人（岐阜大学 1人 IITG 1人）

#### 【養成する人材像と 習得すべき能力等】



世界の製造業を中心とした産業界において国際的に活躍できる高度専門職業人  
 広範な工学分野における優れた知識、技術を有し国際的にリーダーシップを発揮  
 できる指導者・研究者

#### 【専攻の特色】

★在籍期間中、途中1年の期間、相手側の大学（副大学）に滞在  
 ★岐阜大とIITGの両方の共同指導教員による共同研究・協働教育  
 匠の精神（ジャパングオリテイ:J<sub>Q</sub>）&ジュガード精神（J<sub>G</sub>）の相互理解による  
 研究開発の新しい価値観

★デザイン思考(Design Thinking: DT) を研究プロセスに導入

◆教育プログラムの特長  $f_{DT}(J_G \times J_Q) = Innovation$

共同指導教員と学生指導委員会による学生指導  
 ・岐阜大学、IITGのジョイントスーパービジョン（共同指導教員合計2  
 名または3名）による研究指導  
 ・1人の学生に対し岐阜大学とIITGの双方の教員で組織される学生指導委  
 員会による研究進捗確認と指導

◆デザイン思考を取り入れた研究の遂行と進捗評価

科目(名称は仮)	単位数	内容
①ディサテーショ プロジェクト プロポーザル	1	英語による研究プレゼン 事前調査、問題提起、研究の立案
②バイマンズス リーププログ レスレビュー	1	英語による研究プレゼン 共同指導教員との方針確認・議論 各セメスターごとの成績評価
③アニュアル プログレス レビュー	1	英語による研究プレゼン 1年に一度、研究進捗報告
④ディサテーシ ョンシノプ シスレビュー	1	英語によるプレゼン、博士論文の概要提出 博士論文提出前の事前内容確認

★研究教育、学位の質の保証

・研究進捗を各セメスター毎に共同指導教員（主大学、副大学）が評価  
 ・学生指導委員会による研究進捗の確認（上表①③④）  
 ・合同学位審査委員会による、学位審査



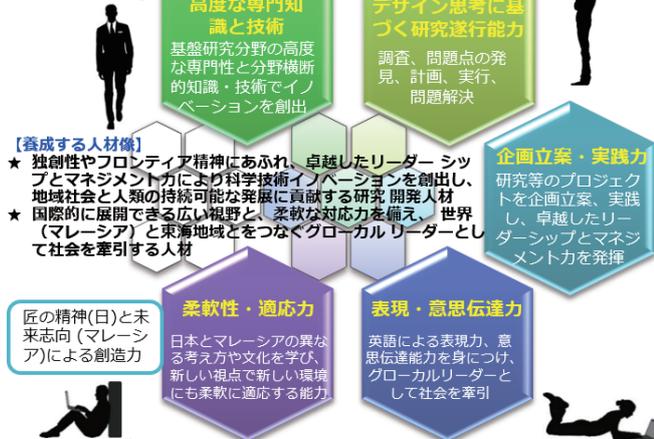
### 岐阜大学・マレーシア国民大学 国際連携材料科学工学専攻（博士課程）の概要



#### 【基本概要】

母体組織：工学研究科（Graduate School of Engineering）[H31.4月改組予定]  
 専攻名称：岐阜大学・マレーシア国民大学国際連携材料科学工学専攻  
 (International Joint Department of Materials Science and Engineering between National University of Malaysia and Gifu University)  
 学位名称：博士（学術）（Doctor of Philosophy）  
 入学定員：2人（岐阜大学 1人 UKM 1人）

#### 【養成する人材像 習得する能力】



#### 《具体的に何が出来るようになるのか》

★グローバルな視点から解決すべき問題を発見、プロジェクトの立案・計画・実行  
 ★東海地域・マレー半島地域で活躍できる産業界のグローバルリーダー  
 ★日本とマレーシアで培う発想力に基づくイノベーション創出  
 ★国際言語である英語での研究・開発プロジェクトの提案

#### 《想定する出口（活躍の場）のイメージ》

✓ 東海地域およびマレー半島地域の化学・素材分野における産業振興に貢献する高度専門職業人を養成する大学教員および企業の研究開発人材・技術者、起業家を輩出  
 ✓ 日本・マレーシア両国における自然との共生と持続可能な社会構築を実現し、かつ成長著しいアジア地域の産業振興、社会のさらなる発展と活性化に貢献

#### 【専攻の特色】

★岐阜大学の研究 特色：化学・材料分野の基礎研究に強み  
 重点分野：実験化学、材料科学が主軸  
 UKMの研究 特色：恵まれた天然資源対象の化学に強み  
 重点分野：多様な化学分野の専門性  
 ★相互連携で、高い専門性と広い知識・展開力を持つ研究開発人材を養成  
 ★在籍生に就学期間中の約1年間、副大学でカリキュラム履修する機会を提供  
 ★日本とマレーシアの異なる考え方を学び新たな価値観を醸成する機会を提供  
 ★国際連携で地域間をつなぐグローバルリーダーを養成

◆教育プログラムの特長

共同指導教員制(Joint Supervision)と学生指導委員会による学生指導

・岐阜大学、UKMの共同指導教員体制（合計2名）での研究指導  
 ・1人の学生に対し岐阜大学とUKMの双方の教員で組織される学生指導委員会（JC）による研究進捗確認と指導

◆デザイン思考を取り入れた研究の遂行と進捗評価

科目(名称は仮)	単位数	内容
①ディサテーシ ョン プロジェクト プロ ポーザル	1	英語による研究プレゼン 事前調査、問題提起、研究の立案
②バイマンズス リーププログ レスレビュー	1	英語による研究プレゼン 共同指導教員（主大学、副大学）との方針確認・議論 各セメスターごとの成績評価 評価低い場合JD専攻から他専攻へ転籍
③アニュアル プログ レスレビュー	1	英語による研究プレゼン 1年に一度、研究進捗報告
④ディサテーシ ョンシノプ シスレビュー	1	英語によるプレゼン、博士論文の概要提出 博士論文提出前の事前内容確認

・研究進捗を各セメスター毎に共同指導教員（主大学、副大学）が評価  
 ・学生指導委員会による研究進捗の確認（①③④）  
 ・合同博士論文審査会による、学位審査

**【基本概要】**

母体組織：大学院連合農学研究科（The United Graduate School of Agricultural Science）  
 専攻名称：岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻  
 （International Joint Department of Food Science and Technology between Indian Institute of Technology Guwahati and Gifu University）  
 学位名称：博士（学術）（Doctor of Philosophy）  
 入学定員：2人（岐阜大学 1人 IITG 1人）

**【養成する人材像と習得すべき能力】**



**【専攻の特色】**

◆在籍期間中、途中1年間、連携外国大学（副大学）で研究活動を実施  
 ◆デザイン思考を研究プロセスに導入 ◆英語を共通言語として使用

**★教育プログラムの特長**

- ・連携外国大学教員との共同研究指導
- ・両大学の指導教員（合計2名以上）による共同研究指導・協働教育
- ・学生指導委員会による研究指導
- 1人の学生に対し岐阜大学とIITGの双方の教員で組織される学生指導委員会による研究進捗確認と指導

**★デザイン思考を取り入れた研究の遂行と進捗評価**

科目（名称は仮）	単位数	内容
①ディサテーション プロジェクトプロポーザル	1	事前調査、問題提起、研究の立案 学生指導委員会において提案
②バイマンズリー プログレス レビュー	3	共同指導教員との方針確認・議論 各セメスターごとの成績評価
③アニュアルプログレス レビュー	2	学生指導委員会において、1年に1度、 研究の進捗を報告
④ディサテーション シンポジウム	1	学生指導委員会において、博士論文の 概要を提出

**◆専門性の深化と広範化、倫理及び自己管理能力の涵養**

- ・総合農学ゼミナール、研究者倫理・職業倫理及びメンタルヘルス・フィジカルヘルス

**◆研究教育、学位の質の保証**

- ・研究進捗を各セメスター毎に共同指導教員（主大学、副大学）が評価（②）
- ・学生指導委員会による研究進捗の確認（①③④）
- ・合同学位審査委員会による学位審査

**【基本概要】**

母体組織：自然科学技術研究科（Graduate School of Natural Science and Technology）  
 専攻名称：岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻  
 （International Joint Department of Food Science and Technology between Indian Institute of Technology Guwahati and Gifu University）  
 学位名称：修士（食品科学技術）（International Joint Degree of Master of Technology in Food Science and Technology）  
 入学定員：10人

**【日印地域産業の要請】**

- 【インド北東地域グワハティの特色】**
- ・生物資源が豊富
- 【課題】**
- ・農業技術・食品加工産業が未発達
  - ・貧困削減と人口増に伴う雇用創出が急務
- 【東海地域の特色】**
- ・高度な食品加工技術を持つ企業がある
- 【課題】**
- ・人口減少と高齢化による産業の衰退の懸念
  - ・世界販路の開拓
- ★日印各地域の食品関連の課題を発見し解決できる人材の育成が必要

**【養成する人材像】**

- ・食品科学技術に関する専門性とデザイン思考活用力を基盤として、食品に関連する日印両地域の課題を解決できる高度専門職業人（技術者）
- ・国際連携プログラムの特長を活かし、英語を共通言語としてコミュニケーションする力、国際的対応力（異文化適応力と国際的協働力）および産業を牽引するリーダーとしての資質を備えた人材
- ★食品科学技術に精通した修士号技術者
- 国際的対応力とイノベーション創出発想を備えた技術者

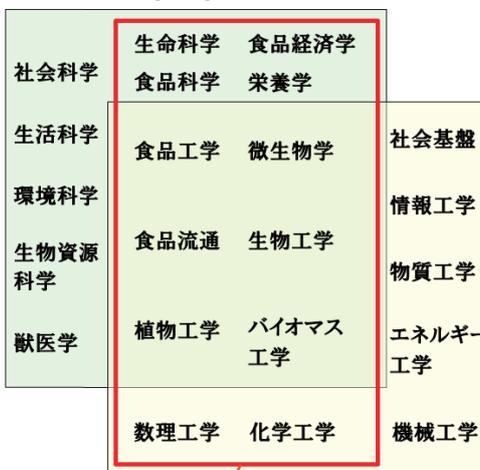
**【修了後の進路】**

本専攻修了生は、日印両国の大学から質保証された国際通用性のある学位取得者  
 食品産業における6次産業化（フードバリューチェーン構築）に貢献できる  
 生物資源生産 → 加工 → 製品 → 流通 → 消費 → 健康増進

- （想定される進路）**
- ・インドを含む世界各国に展開する食品産業に関連する企業（食品製造業、食品流通業、食品・医薬関連企業、バイオテクノロジー企業）における技術者
  - ・インドを含む世界各国への事業展開を目指す食品関連企業における技術者
  - ・国際的な公的研究機関や公的試験機関における技術者や研究者
  - ・国際展開を視野に入れた公的機関の公務員

**【既存の学問分野からみた国際連携食品科学技術】**

**応用生物学（農学）**



**食品科学技術が網羅する学問領域 工学**

- ★応用生物学（農学）分野の本学と工学分野のインド工科大学グワハティ校との間で、**食品科学技術**に関する独自の教育プログラムを構築する